

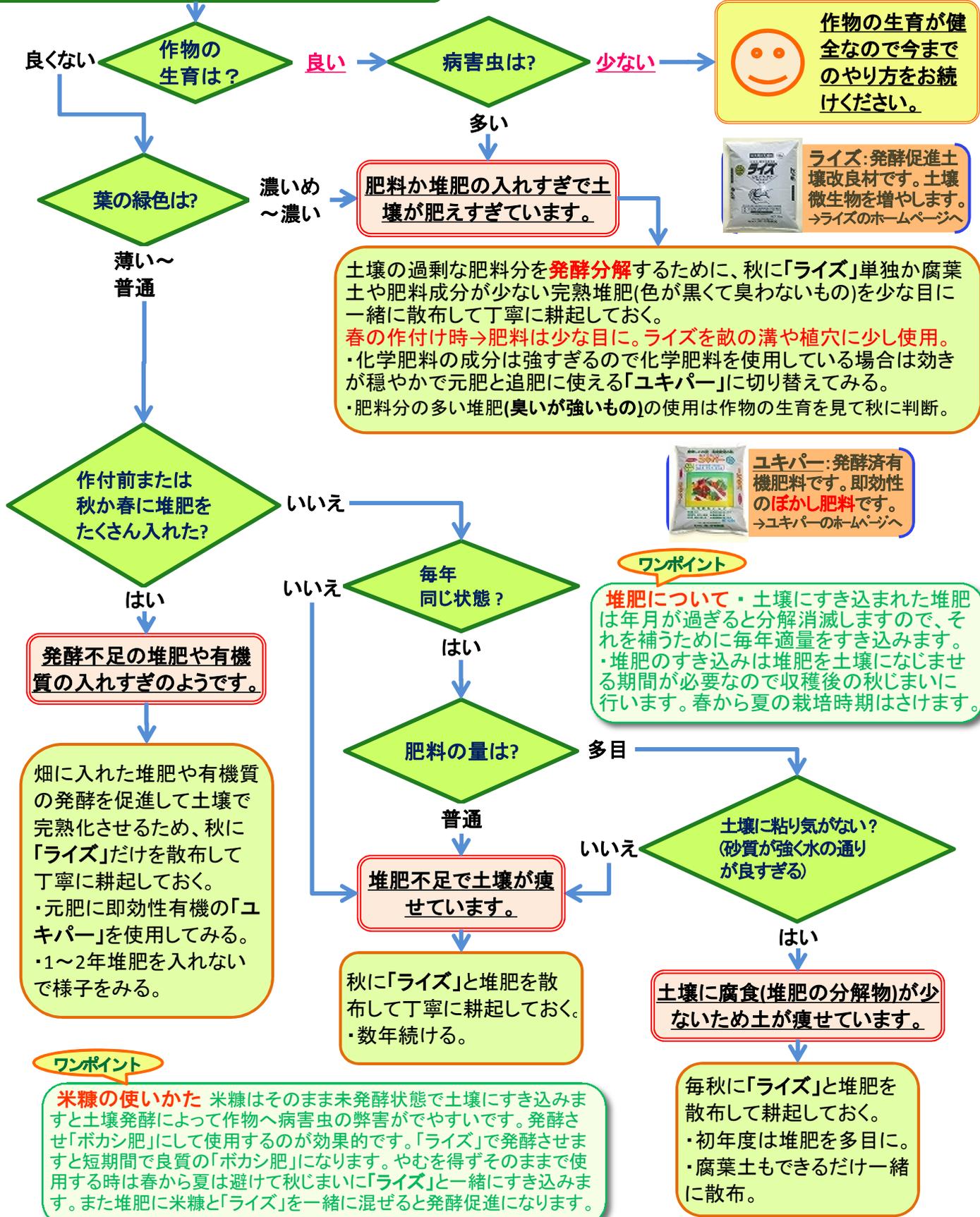
農作業のお悩み解決のヒント

【お悩み解決フローチャート】農作業には「作物の生育が良くない」「病害虫が発生しやすい」「堆肥を使う時期がわからない」「土作りって何」のような悩みが付き物です。このお悩みの解決のためのヒントを示します。毎年の**施肥**や**土壌管理**が土作りの理にかなっていて、作物の生育が良く、病害虫が少なく特別なことをしなくてよい場合があります。下の流れ図を参考になさってください。

〈判断は標準的なものであるので適合しないこともあります〉

ライス・ユキパー 製造元 (有)花巻酵素

土作りとは：堆肥を上手にすき込む等して土壌を管理・手入れをすることで土壌には養分が適度に含まれて多くの有効微生物が繁殖し作物の根張りが旺盛になります。その結果、作物に病気や害虫の発生が少なく、健全に生育し、毎年安定して収穫できるようになります。収穫された作物は美味しく栄養価の高いものとなります。



作物の生育が健全なので今まで
のやり方をお続けください。

ライス：発酵促進土壌改良材です。土壌微生物を増やします。
→ライスのホームページへ

土壌の過剰な肥料分を**発酵分解**するために、秋に「ライス」単独か腐葉土や肥料成分が少ない完熟堆肥(色が黒くて臭わないもの)を少な目と一緒に散布して丁寧に耕起しておく。
春の作付け時→肥料は少な目に。ライスを畝の溝や植穴に少し使用。
・化学肥料の成分は強すぎるので化学肥料を使用している場合は効きが穏やかで元肥と追肥に使える「ユキパー」に切り替えてみる。
・肥料分の多い堆肥(臭いが強いもの)の使用は作物の生育を見て秋に判断。

ユキパー：発酵済有機肥料です。即効性のぼかし肥料です。
→ユキパーのホームページへ

ワンポイント

堆肥について・土壌にすき込まれた堆肥は年月が過ぎると分解消滅しますので、それを補うために毎年適量をすき込みます。
・堆肥のすき込みは堆肥を土壌になじませる期間が必要なので収穫後の秋じまいに行います。春から夏の栽培時期はさけます。

ワンポイント

米糠の使いかた 米糠はそのまま未発酵状態で土壌にすき込みますと土壌発酵によって作物へ病害虫の弊害がでやすいです。発酵させ「ボカシ肥」にして使用するのが効果的です。「ライス」で発酵させますと短期間で良質の「ボカシ肥」になります。やむを得ずそのまま使用する時は春から夏は避けて秋じまいに「ライス」と一緒にすき込みます。また堆肥に米糠と「ライス」を一緒に混ぜると発酵促進になります。

毎秋に「ライス」と堆肥を散布して耕起しておく。
・初年度は堆肥を多目に。
・腐葉土もできるだけ一緒に散布。